大西宇宙
バリトンリサイタル

第Ⅰ部
歌曲集《遥かなる恋人に寄せて》作品**98**（全6曲）…… ベートーヴェン
歌曲集《旅の歌》（全9曲）…… ヴォーン・ウィリアムズ

第Ⅱ部
9つの歌曲より〈ミューズの子〉D 764b …… シューベルト
歌曲集《ミルテの花》作品25より〈献呈〉…… シューマン
万霊節 作品10-8 …… R.シュトラウス
歌劇《タンホイザー》より〈夕星の歌〉…… ヴァーグナー
歌劇《椿姫》より〈プロヴァンスの海と陸〉…… ヴェルディ
歌劇《ドン・キホーテ》より〈笑え、哀れな理想家を〉…… マスネ

夏

2023 四季のコンサート 40周年記念

2023年8月7日（月）17:45開場 18:30開演
会場：アクトシティ浜松中ホール
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

大西宇宙（おおにし たかおき）バリトン
武蔵野音楽大学及び大学院、ジュリアード音楽院卒業。シカゴ・リリック歌劇場にて研鑽。
セイジ・オザワ松本フェスティバルでルイージ指揮「エフゲニー・オネーギン」にて日本オペラデビュー以来、ヤルヴィ指揮NHK交響楽団「フィデリオ」、プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団「イオランタ」、鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパン「リナルド」、沼尻竜典指揮びわ湖ホールプロデュースオペラ「ローエングリン」「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、デスピノーザ指揮新国立劇場「愛の妙薬」、ノースカロライナ歌劇場／原田慶太楼指揮「カルメン」「道化師」、フェイガン指揮「フィデリオ」、キム・ウンスン指揮ヒューストン・グランド・オペラ「トゥーランドット」、東京・春・音楽祭ムーティ指揮「仮面舞踏会」等に出演。昨今では兵庫県立芸術文化センター 佐渡裕プロデュース・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールでは多くの聴衆を魅了し、絶賛された。
オーケストラ作品のレパートリーも広く、カーネギーホールにてシベリウス「クレルヴォ」「カルミナ・ブラーナ」「ドイツ・レクイエム」に出演。国内でもNHK交響楽団「第九」、読売日本交響楽団「ドイツ・レクイエム」、バッハ・コレギウム・ジャパン「メサイア」等、高評されている。
CD「詩人の恋」（ピアノ:小林道夫）をBRAVO RECORDSよりリリース。日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。また五島記念文化賞オペラ新人賞受賞の成果発表リサイタルでは、ピアノの名手ブライアン・ジーガーを招聘し、10月22日（日）びわ湖ホールと10月24日（火）東京文化会館にて開催予定。

筈井美貴（はずい みき）ピアノ
武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科、同大学院修了。在学中、学内演奏会や卒業演奏会、レインボウ21サントリーホールデビューコンサートなどに出演。平成20年度武蔵野音楽大学福井直秋記念奨学生。第37回家永ピアノオーディション合格、第9回滋賀県新人演奏会部門優秀賞、第13回ノーヴイ国際音楽コンクール第2位、第11回メンデルスゾーン・カップ ヨーロッパ（イタリア）第1位及びルービンシュタイン賞など、受賞多数。伴奏では国内は八ヶ岳音楽祭、オペラ団体『絨毯座』などでオペラ伴奏やNHK-FM『リサイタル・ノヴァ』、「近江の春びわ湖クラシック音楽祭」に出演。国外ではワシントンDC在アメリカ日本大使館での特別演奏会、ニューヨークのオペラ・アメリカでのリサイタルなどに出演し好評を得るなど、国内外で声楽家との共演を中心に活動している。

©Jaclyn Simpson

大西宇宙
バリトンリサイタル

©Dario Acosta

曲目解説

堀内彩虹

●ベートーヴェン:歌曲集《遥かなる恋人に寄せて》作品98
ヤイテレスの詩のシンメトリー性を引き継ぎ、全6曲が調性、拍子、詩の行数の点で対称的関係になるよう構成されている。第1曲は5節からなる有節形式だが、変化に富み、ゆったりしたテンポのなかに表情の移り変わりを感じさせる。歌詞は恋人を想い「歌を歌う」ことを語る。第2曲で恋人に会いたい気持ちを嘆く様子が歌われる。旋律が伴奏へ静かに託される第3節と第4節が象徴的。第3曲では一転して、休符を細かに挟み込んだ軽快な旋律と伴奏の三連符とが生のリズムを作りだし、自然との語らいを表現する。第4曲以降、シンメトリックな構造による反復があらわれる。第3曲の対となる第4曲は第3曲から切れ目なく続いており、一つの作品のように奏される。シンコペーションでやや変化を与えながら自然への語りかけを続ける。第5曲前の間奏でピアノが鳥の声を模倣すると、第5曲では暖かな春の到来にもかかわらず、恋人と自分には春が来ないと嘆く歌詞が歌われる。対の関係である第2曲から引き継いだハ長調で伸びやかな旋律を聴かせたかと思うと、最後にハ短調で「あるのは涙のみ」と歌い、悲哀を漂わせて終わる。第6曲では、第1曲で登場した「歌う」という言葉がさらに強調され、恋人と自分をつなぐ「歌」の存在が繰り返し提示される。第1曲の調性と旋律が終曲に再び現れることで全体の統一性が保たれる。

●ヴォーン・ウィリアムズ: 歌曲集《旅の歌》
世界を旅した作家スティーヴンソンの詩に基づく全9曲からなる曲集で、作品のいたるところにウィリアムズが関心をもっていた民謡の影響が感じられる。本作品の歌詞にも「歌」がモチーフとしてたびたび登場する。〈放浪者〉では行進曲風の音楽と3連符のリズムが旅を始める旅人の足取りを表す。〈美しい人よ、目覚めよ〉はアラベスク調の音楽のなかに夢のような浮遊感を漂わせ、〈道端の火〉で火のように揺れ動く伴奏にのせて旅の自由さがもたらす恍惚が「歌」のモチーフと重ねられる。〈青春と愛〉の音楽が感傷を引き出すようなリズムを伴って穏やかな生活と自由な放浪とのあいだを揺れ動き、旅が最高潮を迎えたことを暗示すると、〈夢の中で〉がピアノの奏でる不穏さと半音階の旋律で不吉な予感を知らせる。〈無限に輝く空〉は、夜の闇のなかでまどろみながら光り輝く星を眺める様子を歌う。〈私はいずこへさすらうか〉では過去と故郷への後悔の念が見え隠れするが、最後には戻ることのできない道への覚悟がにじむ。〈輝かしきは言葉のひびき〉は力強い伴奏で始まると、言葉の持つ力と「歌」の不滅を歌う。最後の〈坂をのぼり、坂をおりた〉は旅人が人生の終わりを予期する短い詞をもち、それまでの4曲からの引用を結んだ息の長い音楽で静かに曲集を締めくくる。

●シューベルト:9つの歌曲より〈ミューズの子〉D 764b
女神(ミューズ)の子が歌を歌いながら野や森を駆け回り、その歌声に誘われて皆が踊りだす様子を描いたゲーテの詩に、シューベルトは澄んだ透明感と明るさをもつ音楽を与えた。子どもが飛びまわるような軽やかな伴奏は、低音と和音を調子よく交互に繰り返しながら愛らしい旋律に導かれて最後まで一気に駆け抜ける。

●シューマン:歌曲集《ミルテの花》作品25より〈献呈〉
リュッケルトによる詩は、各行の冒頭をDの音(「きみ(Du)」や「きみの(Dein)」)で揃えることで、その後に現れる言葉の違いが音として際立つ作りになっている。それに合わせ、シューマンの音楽も忙しなく律動する伴奏の上に言語的音の陰影が浮かび上がる。

●R.シュトラウス:万霊節 作品10-8
ギルムの詩に付曲した作品。万霊節とは死者の霊を祀るカトリックの記念日で、この曲も亡き愛する人を偲ぶ様子を歌う。全体に崇高な美しさをたたえているが、旋律は静謐さを保ちながらも息の長いフレーズを連綿とつなぎ合わせて高まりをみせ、曲の頂へと向かう。

●ヴァーグナー:歌劇《タンホイザー》より〈夕星の歌〉
第3幕でヴォルフラムによって歌われるアリア。片想いの相手エリーザベトに死が迫っていることを予期したヴォルフラムは、エリーザベトが天国へ導かれるようにと願い、竪琴を手に祈りを捧げて歌う。竪琴の音を思わせる伴奏に質朴とした祈りの旋律が重なる。

●ヴェルディ:歌劇《椿姫》より〈プロヴァンスの海と陸〉
第2幕、恋人ヴィオレッタと別れるよう息子を説得する父ジェルモン。息子に故郷プロヴァンスでの輝きと安らぎに満ちた生活を思い出せと歌う。旋律上の音型の反復が訴えの切実さを表現する一方、南フランスの海と陽射しを彷彿とさせる響きも印象的なアリア。

●マスネ:歌劇《ドン・キホーテ》より〈笑え、哀れな理想家を〉
第4幕、ドゥルシネのパーティの場面。ドン・キホーテの従者であるサンチョ・パンサは、主人が客たちの冷笑の的になっていることに憤慨し、客たちへ痛烈な皮肉を並べたてる。巧みなリズムでまくし立てるアリアは、サンチョのウイットに富み、現実主義的な性格を際立たせる。

アンコール曲:高田三郎/くちなし
ディ・カプア/オーソレミオ

ほりうちあやこ(音楽学研究者/音楽評論家)